

# 「選択と集中」を 政治に迫る

社会保障国民会議は、医療・介護の「あるべき姿」を描く試算をまとめた（10月23日）。どの選択肢を選び、いかに人材や費用を投入するか。この「選択と集中」を迫る試算に、政治は、いったい、どう応えるのか。

入院日数短縮はヒト・カネ次第

少子化と長命化に拍車がかかる2025年へ3つのシナリオが提示された。名づければ「穏やかな改革」と「西欧並み」と「西欧以上」の近未来図だ。

改革の、いわば「入り口」は病院の機能分化である。現在の一般病床を急

性期と亜急性期、回復期等に分けて役割分担を徹底していく。

現状は1日当たり入院102万人（一般病床80万人、療養病床22万人）。高齢化に伴い入院患者数は増えるが、「緩やかな改革」では124万人（急性期56万人、亜急性期等47万人、長期療養21万人）、「西欧並み」では110万人（各47万人、40万人、23万人）に抑え、内訳も大きく変える。「西欧以上」もほぼ同じ入院数だが、急性期をさらに高度と一般に専門化させる（表参照）。

これにより急性期の平均入院日数は

表 シナリオ別で医療・介護はどう変わる（患者、利用者数は1日当たり）

	2007年	2025年			
		現状追認	緩やか改革	西欧並み	西欧以上
入院患者数	102万人	140万人	124万人	110万人	111万人
介護施設	84万人	169万人	146万人	149万人	149万人
居住系	25万人	47万人	68万人	68万人	68万人
在宅介護	243万人	408万人	424万人	429万人	429万人
総従事者数	385.0万人	563.8万人	641.3万人	678.7万人	684.4万人
総費用	41兆円	85兆円	92兆円	92兆円	93兆円

注)「社会保障国民会議」資料より

現状のままでは15・5日にとどまるが、「緩やかな改革」は12日、「西欧並み」は10日、「西欧以上」は9日（高度急性期は16日）に短縮できる、という。

もちろん人材と費用がかかる。「緩やかな改革」でも人材6割増・病床単価7割増、「西欧並み」は人材・病床単価とも倍増、「西欧以上」の高度急性期は、とくに2倍超と予測される。

政府も「入院日数の短縮」を重要課題に挙げたが、医療費の抑制策として強調する傾向にあった。その攻勢に押され厚労省も、急性期医療の充実に全力を投入する決意と実行に欠けた。

今回の試算は、入院日数短縮にはヒト・カネ・モノの集中投入が不可欠という極めて常識的な結論を導き出した。

介護も施設頼みからの脱却へ

早期退院には受け皿がいる。在宅療養・在宅介護の体制を整えなければならぬ。

介護サービス利用者は、いま352万人（施設84万人、居住系25万人、在宅243万人）。これが「西欧並み」

で646万人（各149万人、68万人、429万人）と概算される。要介護者の急増は避けられないものの、特別養護老人ホーム等の施設を極力抑え、グループホーム、ケアハウス等の居住系を3倍近く増やす、在宅介護はとりわけホームヘルプ・デイサービス・ショートステイを一体化した小規模多機能型を飛躍的に伸ばす想定だ。

「西欧並み」でみると、医療費は現状の入院40%対外来・訪問診療60%の費用分布が急性期医療の充実でほぼ半々になる。介護費は、現状の施設44%対在宅45%対居住系・小規模多機能型11%から各34%対47%対19%と、在宅介護へ大きくシフトさせる。

「ゴールドプラン」の再現を

改革シナリオで医療・介護の総費用はどう変わるのか。

現在の約41兆円（医療34兆円、介護7兆円）から「現状維持」でも約85兆円に倍増する（追加財源は消費税率換算3%、物価上昇等で1%分は約4兆円）。3通りの改革シナリオは91〜94兆円に膨らむ（同4%）。

試算は、納得できる・安心できる医

療や介護にはコストがかかることを改めて示した。消費税以外の財源を加えるにしても、史上前例のない少子長命化の、これが「近未来」に違いない。

とくに少子化の急進展下で人材確保は最難問だ。改革シナリオはいずれも600万人台、現状より7〜8割増のマンパワーが不可欠と弾いた。

想起すべきは介護サービスの人材養成や拠点整備に踏み切った「ゴールドプラン」（90年開始、事業費約6兆円）である。この10カ年計画の半ばから「新ゴールドプラン」（95年開始、同9兆円）に衣替えされ、介護保険実施にこぎ着けた。いずれも消費税3%導入、同5%アップへ向け「福祉に使う」という公約との引き換えであった。

麻生政権が「定額給付金」をバラ撒こうとしているだけに、なぜ、その約2兆円を医療・介護の再構築に先行投資できないのか。「選択と集中」の欠如というほかない。

宮武 剛（みやたけ 剛）

早稲田大学政経学部卒。毎日新聞社・論説副委員長、埼玉県立大学教授を経て、現在、目白大学教授。近著に「介護保険の再出発 医療を変える・福祉も変わる。」（保健同人社）